

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く
都道府県別訪日外客数と訪問率
月次指標の早期推計：2月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

● 3月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶ JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、**2月の訪日外客総数(推計値)**は 278 万 8,000 人であった。**春節休暇やうるう年**で日数が増加した影響もあり、**単月過去最高を更新**。2019 年同月比では**+7.1%**と 2 カ月ぶりに増加した。なお、**中国人客を除いた総数は 232 万 8,600 人で、同+23.8%**と 8 カ月連続のプラス(前月：同+17.4%)。また、**同月の出国日本人数は 97 万 8,900 人**となった(前月：83 万 8,581 人)。19 年同月比-36.2%と前月(同-42.3%)から減少幅は縮小した。

▶ **訪日外客数のトップ 5 を国・地域別にみると(図 2)、韓国が 81 万 8,500 人(2019 年同月比+14.3%)と最多**であり、次いで台湾が 50 万 2,200 人(同+25.6%)、中国が 45 万 9,400 人(同-36.5%)、香港が 20 万 5,900 人(同+14.8%)、米国が 14 万 8,700 人(同+60.5%)と続く。

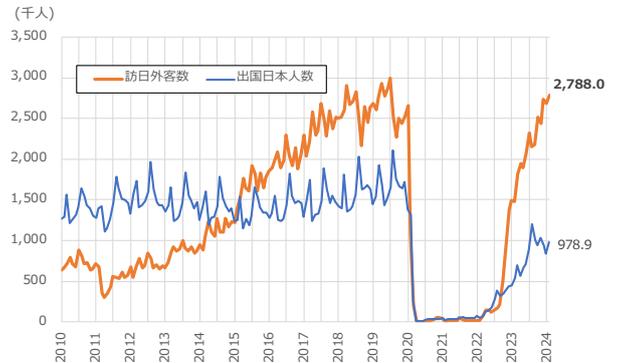
▶ **目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば、12月は 273 万 4,115 人**となった(2019 年同月比+8.2%)(図 3 及び表 5)。うち、**観光客は 255 万 1,290 人(同+11.3%)**、**商用客は 8 万 703 人(同-35.1%)**、**その他客は 10 万 2,122 人(同-7.2%)**であった。

▶ **2023 年通年の目的別訪日外客総数(暫定値)は、2,506 万 6,350 人**、19 年比-21.4%となった。うち、**観光客は 2,237 万 9,962 人と前年(248 万 7,835 人)から大幅増加(同-20.8%)**。また、**商用客は 106 万 7,684 人(同-39.2%)**、**その他客は 161 万 8,074 人(同-13.3%)**であった。

▶ なお、**12月の観光客の TOP5 を国・地域別にみれば、韓国が 75 万 7,696 人(2019 年同月比+260.4%)と最多**であった。次いで台湾が 38 万 8,567 人(同+16.9%)、中国が 26 万 9,957 人(同-58.2%)、香港が 24 万 8,105 人(同+0.9%)、米国が 17 万 2,056 人(同+37.7%)と続く(表 5)。

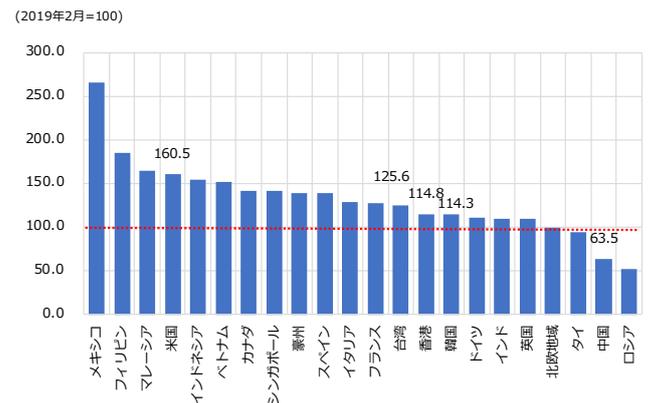
▶ 国土交通省が公表した 2024 年夏季運航スケジュール(3月 31 日～10月 26 日)によれば、国際線の旅客便は週 4,875 便で、19 年同期比-7%とコロナ禍前をほぼ回復した。方面別にみれば、韓国は週 1,211 便(同+56%)、米国は週 329 便(同+11%)とコロナ禍前を上回った。また、台湾は週 594 便(同-7%)、香港は週 414 便(同-1%)とほぼコロナ禍前を回復。一方、中国は週 1,054 便と依然コロナ禍前の 6 割程度(同-38%)の回復にとどまっている。今後、中国を除くアジア地域を中心に回復が見込まれる一方、中国人客の回復は緩やかなものにとどまろう。

図 1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 2022 年まで確定値、23 年は暫定値、24 年 1-2 月は推計値

図 2 上位 5 カ国・地域別訪日外客数の推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成。

図 3 目的別訪日外客数推移



出所:日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」より筆者作成
注) 目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から 2 カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが 2023 年 9 月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

● 2月関西の財貨・サービス貿易及び1月のサービス産業動向

▶ **関西2月の輸出額は前年同月比-1.0%と2カ月ぶりに減少**(前月：同+6.2%)。一方、**輸入額は同+2.9%と11カ月ぶりの増加**となった(前月：同-9.5%)。結果、**貿易収支は+1,957億円と2カ月ぶりの黒字**だが、**黒字幅は前年同月比-22.8%縮小**した(前月：同-85.9%)(図4)。

▶ うち、**対中貿易動向**をみると(図5)、**関西2月の対中輸出は前年同月比-7.0%と3カ月ぶりに減少**した(前月：同+21.8%)。春節休暇の時期のズレ(23年1月→24年2月)が影響したためである。輸出減に寄与したのは半導体等電子部品や医薬品等であった。一方、**対中輸入は同+13.0%と10カ月ぶりの増加**(前月：同-10.4%)。輸入増に寄与したのは衣類及び同附属品及び金属製品等であった。結果、**対中貿易収支は-449億円と2カ月連続の赤字**となった(前年同月差-721億円)。

▶ **2月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は71万5,170人と、全国と同様に単月としては過去最高を記録**した(前月：70万402人)。2019年同月比では+6.0%と3カ月連続のプラス。また、**日本人出国者数は18万3,012人であった**(前月：15万652人)。19年同月比では-40.1%と、前月(同-47.7%)からマイナス幅は縮小したが、インバウンド需要に比してアウトバウンド需要は低調である(図6)。

▶ **1月のサービス業の活動は2カ月連続の改善だが小幅にとどまり、足踏みの状態が続く**。サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み：2015年平均=100)をみれば(図7)、1月は100.9で前月比+0.3%小幅上昇し、**2カ月連続のプラス**となった(前月：同+0.5%)。1月を10-12月平均と比較すると、+0.5%上昇した(10-12月期：前期比-1.3%)。また、**対面型サービス業指数***は97.3で同+2.2%上昇し、**2カ月連続のプラス**(前月：同+1.6%)。うち、**飲食店、飲食サービス業**(同+9.9%、2カ月連続)や**運輸業**(同+0.4%、2カ月ぶり)が**上昇に寄与**。1月の対面型サービス業指数は10-12月平均比+2.7%上昇した(10-12月期：同-2.4%)。

▶ **観光関連指数****(2015年平均=100)は、95.8と前月比+6.0%上昇し、**2カ月連続のプラス**(前月：同+2.3%)(図7)。うち、**コロナ5類移行後初めての年始休暇の影響**もあり、**劇場・興行団**(同+49.7%、6カ月連続)や**旅客運送業**(同+3.1%、3カ月連続)が**上昇に寄与**した。1月の観光関連指数を10-12月平均と比較すると+6.8%上昇した(10-12月期：前期比-2.5%)。

*対面型サービス業は、運輸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、その他の生活関連サービス業及び娯楽業を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、観光庁「旅行・観光サテライト勘定」の分類に対応する、鉄道旅客運送業、道路旅客運送業、水運旅客運送業、航空旅客運送業、旅客運送業、その他のレンタル、自動車賃貸業、宿泊業、飲食店、飲食サービス業、旅行業、映画館、劇場・興行団の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

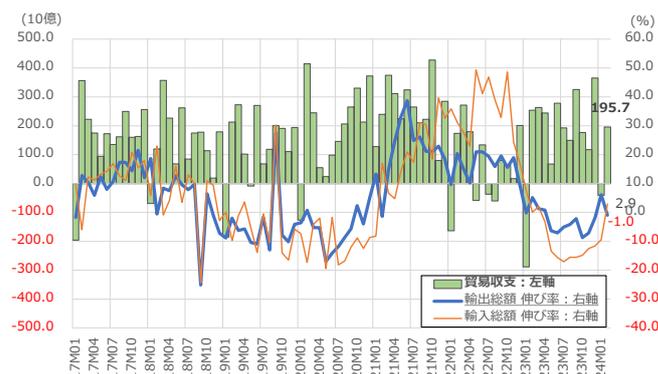
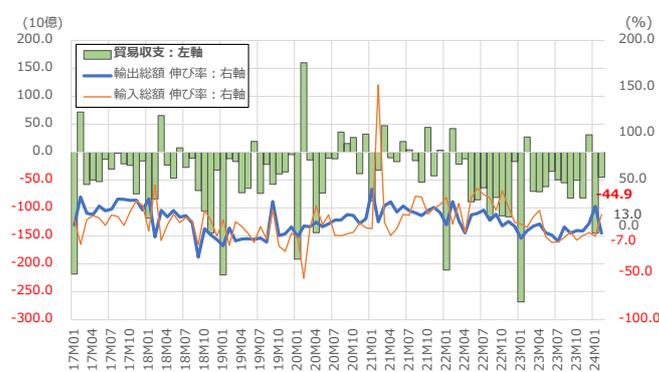
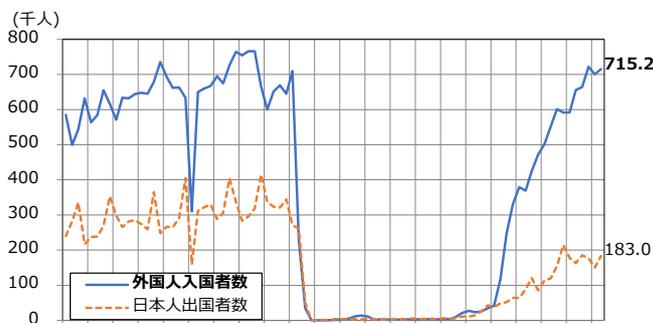


図5 関西 対中貿易の推移



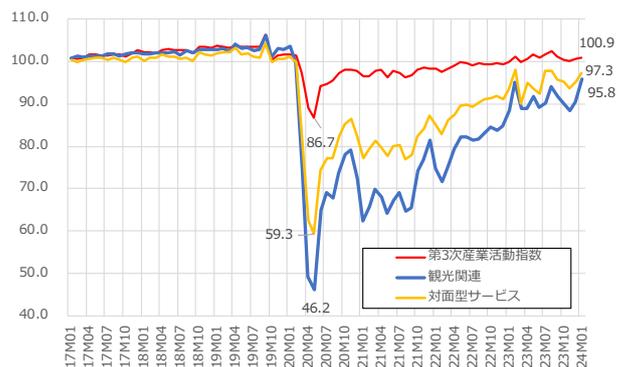
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所：出入国管理統計より筆者作成。2024年2月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業：2015年=100



出所：経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 12月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、12月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**11,068.0**千人泊であった(表1)。2019年同月比+12.8%と4カ月連続で増加した(前月：同+10.0%)。

▶日本人延べ宿泊者数は**7,593.7**千人泊となった。2019年同月比+3.1%と4カ月連続で増加した(前月：同+1.3%)(表1及び図8)。

府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,637.7千人泊、京都府 1,842.2千人泊、兵庫県 1,174.0千人泊、三重県 607.1千人泊、滋賀県 334.0千人泊、和歌山県 292.2千人泊、福井県 237.6千人泊、奈良県 172.1千人泊、徳島県 163.0千人泊、鳥取県 151.9千人泊であった。2019年同月比では、京都府が**7カ月連続のプラス**、大阪府、兵庫県、奈良県はそれぞれ**4カ月連続のプラス**。滋賀県もコロナ禍以降、初めてプラスに転じた。

▶外国人延べ宿泊者数は**3,474.3**千人泊となった。2019年同月比+41.6%と5か月連続のプラスとなり、増加幅は前月(同+34.6%)から拡大(表1及び図9)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,154.7千人泊、京都府 1,080.9千人泊、兵庫県 104.1千人泊、和歌山県 38.3千人泊、奈良県 28.4千人泊、滋賀県 23.4千人泊、三重県 21.6千人泊、徳島県 8.5千人泊、鳥取県 7.9千人泊、福井県 6.7千人泊であった。2019年同月比では、大阪府と京都府はいずれも**6カ月連続のプラス**。また、兵庫県、和歌山県はそれぞれ2か月連続でプラスとなった。

▶関西2府8県延べ宿泊者数を居住地別にみると(図10)、県内の延べ宿泊者数は1,426.0千人泊、県外は9,241.2千人泊であった。2019年同月比をみれば、県内は同+12.6%と27カ月連続のプラス。県外(含む外国人)は同+15.8%と4カ月連続でプラスとなり、増加幅は前月(同+12.6%)から拡大した。

▶2023年関西の延べ宿泊者数は**1億2,386万人泊**、19年比-1.3%となった(22年：8,724万人泊、同-29.6%)。うち、日本人延べ宿泊者数は**8,906万人泊**(同-1.2%)、外国人延べ宿泊者数は**3,314万人泊**(同-1.8%)であった。COVID-19が5類に移行し、社会経済活動が正常化したことで、国内旅行及びインバウンド需要が回復した。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

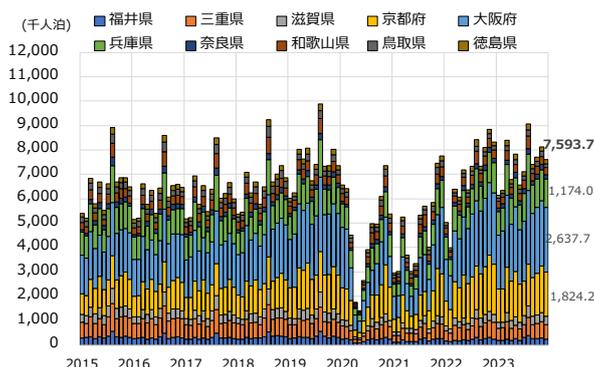


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

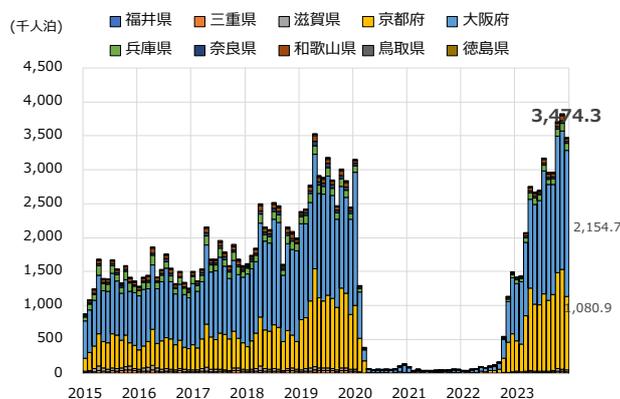
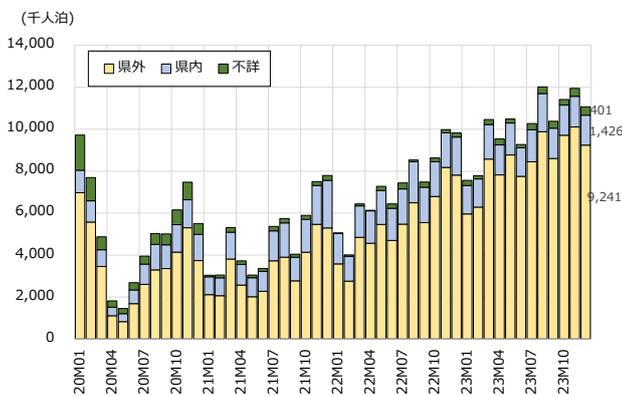


図10 関西 居住地別延べ宿泊者比率の推移



注) 県外の宿泊者には外国人宿泊者も含まれる。

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：12月

2023年12月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	19年比伸び率： 12月(%)	19年比伸び率： 11月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	19年比伸び率： 12月(%)	19年比伸び率： 11月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	19年比伸び率： 12月(%)	19年比伸び率： 11月(%)
福井県	244.2	-24.7	-20.4	237.6	-24.7	-20.5	6.7	-23.6	-19.2
三重県	628.6	-4.0	-6.8	607.1	-3.3	-5.5	21.6	-20.8	-34.3
滋賀県	357.4	-0.1	-10.6	334.0	2.2	-10.0	23.4	-24.3	-16.6
京都府	2,905.1	21.7	19.9	1,824.2	14.8	11.0	1,080.9	35.4	34.2
大阪府	4,792.4	21.3	17.7	2,637.7	3.7	3.1	2,154.7	53.3	44.6
兵庫県	1,278.1	10.9	13.4	1,174.0	10.4	14.4	104.1	16.3	3.7
奈良県	200.5	4.4	5.2	172.1	6.3	8.7	28.4	-6.2	-11.5
和歌山県	330.5	-14.3	-17.2	292.2	-16.0	-21.8	38.3	1.3	14.3
鳥取県	159.7	-29.4	-21.4	151.9	-28.2	-19.7	7.9	-46.7	-45.3
徳島県	171.4	-7.5	-18.4	163.0	-6.9	-20.5	8.5	-17.4	10.9
関西2府4県	9,864.0	17.1	14.3	6,434.2	6.6	4.8	3,429.7	43.4	36.4
関西2府8県	11,068.0	12.8	10.0	7,593.7	3.1	1.3	3,474.3	41.6	34.6
全国	50,735.0	7.6	6.6	38,432.5	1.3	1.1	12,302.5	34.0	31.1

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図8~10及び表1)

トピックス 3

● 2023年10-12月期訪日外国人訪問率と消費単価：関西

▶ 2023年10-12月期における関西各府県の訪問率をみると(図11)、大阪府39.3%が最も高く、次いで京都府28.9%、奈良県6.8%、兵庫県5.5%、和歌山県1.2%、三重県0.8%、滋賀県0.6%、鳥取県0.3%、徳島県0.2%、福井県0.2%と続く。2019年同期と比較すると、大阪府(+0.3%ポイント)や京都府(+0.2%ポイント)はいずれも上昇。一方、奈良県(-5.3%ポイント)、兵庫県(-0.6%ポイント)、和歌山県(-0.2%ポイント)、滋賀県(-0.2%ポイント)はそれぞれ低下した。

▶ 当該期間の各府県の訪問率に訪日外客数を乗じて推計した関西における訪日外客数を要約しておこう。推計された2023年10-12月期の訪問者数を降順にみれば(表2)、大阪府が302万2,248人(2019年同期比+3.9%)と最も多く、次いで京都府が222万5,188人(同+3.8%)、奈良県が52万1,369人(同-42.2%)、兵庫県が42万1,601人(同-8.0%)、和歌山県が9万3,346人(同-9.0%)、三重県が5万8,487人(同-0.5%)、滋賀県が4万5,242人(同-22.2%)、鳥取県が2万544人(同-33.2%)、徳島県が1万8,875人(同-38.8%)、福井県が1万6,375人(同+1.1%)と続く。19年同期比では大阪府、京都府と福井県がプラスとなった。奈良県については訪問率が大幅低下した影響もあり、同-42.2%減少した。

▶ 表3は2023年10-12月期の関西における訪日外国人消費単価(旅行者1人1回当たりの旅行消費金額)を示している。関西2府4県では19年同期比で+29.2%増加した。費目別にみれば、宿泊費(同+81.9%)や娯楽等サービス費(同+75.7%)が大幅増加した。

▶ なお、関西2府4県の訪日外客数(表2)と消費単価(表3)を用いて、2023年10-12月期の関西における消費額を推計した。結果、訪日外客消費額は4,164億9,716万円となった。19年同期比では+25.7%と、コロナ禍前を回復した。同期の全国の消費額は1兆6,688億円、同+37.6%となっており、関西は全国の伸びを幾分下回った。

*全国の費目別消費単価及び消費額については本レポートNo.52を参照。

図11 訪日外国人訪問率の推移：関西2府8県

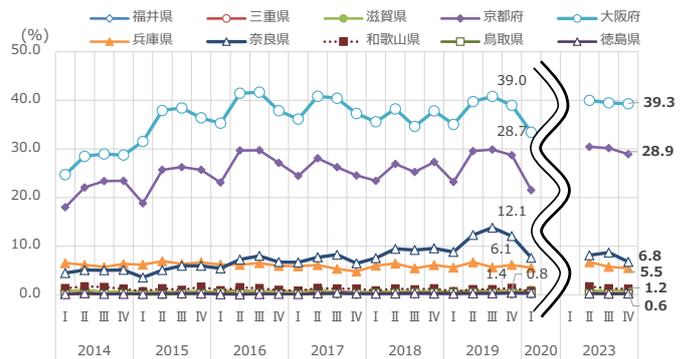


表2 訪日外客の訪問率と人数：関西2府8県

府県ベース	訪問率		訪日外客数		19年比伸び率
	19Q4	23Q4	19Q4	23Q4	
福井県	0.2	0.2	16,205	16,375	1.1
三重県	0.8	0.8	58,796	58,487	-0.5
滋賀県	0.8	0.6	58,176	45,242	-22.2
京都府	28.7	28.9	2,143,443	2,225,188	3.8
大阪府	39.0	39.3	2,908,534	3,022,248	3.9
兵庫県	6.1	5.5	458,460	421,601	-8.0
奈良県	12.1	6.8	901,552	521,369	-42.2
和歌山県	1.4	1.2	102,559	93,346	-9.0
鳥取県	0.4	0.3	30,760	20,544	-33.2
徳島県	0.4	0.2	30,865	18,875	-38.8

運輸局ベース	訪問率		訪日外客数		19年比伸び率
	19Q4	23Q4	19Q4	23Q4	
北海道	11.2	6.2	834,852	475,673	-43.0
関東	52.9	54.4	3,948,219	4,186,030	6.0
中部	11.7	9.9	875,099	758,202	-13.4
近畿	36.2	42.6	2,699,864	3,273,211	21.2
九州	9.1	12.8	678,483	986,913	45.5

出所:JNTO『訪日外客統計』及び観光庁『訪日外国人消費動向調査』より推計。
注:全目的(観光・レジャー目的以外も含む)の訪問率をもとに訪日外客数を推計している。なお、地方単位(運輸局ベース)で推計される訪問率と訪問者数は、地方内の複数訪問を1回とカウントしているため、都道府県の訪問者数を単純に合算した値とは異なることに注意。

表3 費目別訪日外国人消費単価の比較：関西2府4県

	消費単価	費目別(7区分)						
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2019年10-12月期 (万円/人)	滋賀県	2.9	0.8	0.8	0.1	0.0	0.4	0.0
	京都府	3.7	1.2	0.9	0.1	0.2	0.7	0.0
	大阪府	7.7	1.5	1.3	0.1	0.2	3.6	0.0
	兵庫県	3.6	1.0	0.9	0.1	0.1	1.0	0.0
	奈良県	0.7	0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
	和歌山県	3.5	1.5	0.7	0.1	0.1	0.3	0.0
2府4県	3.7	1.0	0.8	0.1	0.1	1.0	0.0	
2023年10-12月期 (万円/人)	滋賀県	5.7	2.7	2.1	0.2	0.1	0.5	0.0
	京都府	5.2	2.2	1.3	0.1	0.2	1.0	0.0
	大阪府	9.0	2.7	1.9	0.2	0.5	3.3	0.0
	兵庫県	3.6	1.2	1.1	0.1	0.2	0.9	0.0
	奈良県	1.2	0.3	0.4	0.0	0.1	0.2	0.0
	和歌山県	3.8	2.0	0.9	0.1	0.1	0.5	0.0
2府4県	4.8	1.8	1.3	0.1	0.2	1.1	0.0	
19年同期比(%)	滋賀県	96.7	231.4	170.3	179.5	33.6	10.0	-
	京都府	40.5	79.5	43.0	67.6	28.8	33.5	-
	大阪府	17.3	79.9	52.6	37.6	118.0	-6.5	-
	兵庫県	0.8	21.5	11.5	11.5	95.1	-10.4	-
	奈良県	68.1	248.8	99.8	130.6	182.9	20.9	-
	和歌山県	8.9	33.2	29.3	6.8	-9.8	54.4	-
2府4県	29.2	81.9	59.7	57.0	75.7	2.6	-	

訪日外客消費額	19年10-12月期(万円)	23年10-12月期(万円)	19年同期比(%)
関西2府4県	33,144,309	41,649,716	25.7
全国	121,280,000	166,880,000	37.6

(注)全目的ベース。2019年及び23年は確報(上図も同様)。消費単価にはパッケージ参加費が含まれる。

出所:観光庁『訪日外国人消費動向調査』より作成。

表4 2024年2月訪日外客数 (JNTO 推計値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2024年	伸率(%)	2019年	2024年	伸率(%)
	2月	2月		2月	2月	
総数	2,604,322	2,788,000	7.1	5,293,661	5,476,100	3.4
総数(中国除く)	1,880,705	2,328,600	23.8	3,815,623	4,600,800	20.6
韓国	715,804	818,500	14.3	1,495,187	1,675,500	12.1
中国	723,617	459,400	-36.5	1,478,038	875,300	-40.8
台湾	399,829	502,200	25.6	787,327	994,500	26.3
香港	179,324	205,900	14.8	333,616	392,200	17.6
タイ	107,845	101,400	-6.0	200,494	192,000	-4.2
シンガポール	26,102	36,900	41.4	48,778	71,000	45.6
マレーシア	36,660	60,200	64.2	68,059	92,300	35.6
インドネシア	24,622	38,200	55.1	57,099	79,500	39.2
フィリピン	35,170	65,200	85.4	71,157	122,000	71.5
ベトナム	39,377	60,100	52.6	74,752	104,700	40.1
インド	9,071	10,000	10.2	21,539	22,600	4.9
豪州	47,658	66,500	39.5	128,721	170,100	32.1
米国	92,669	148,700	60.5	195,860	280,500	43.2
カナダ	23,883	33,900	41.9	46,176	65,600	42.1
メキシコ	2,889	7,700	166.5	6,504	14,500	122.9
英国	23,554	25,900	10.0	45,108	45,700	1.3
フランス	17,397	22,300	28.2	32,717	36,700	12.2
ドイツ	13,384	14,900	11.3	24,742	25,300	2.3
イタリア	5,897	7,600	28.9	11,930	14,500	21.5
スペイン	4,533	6,300	39.0	8,915	11,100	24.5
ロシア	5,601	2,900	-48.2	11,917	6,100	-48.8
北欧地域	8,924	8,900	-0.3	17,389	16,300	-6.3
中東地域	3,630	6,200	70.8	7,566	12,100	59.9
その他	56,882	78,200	37.5	120,070	156,000	29.9

表5 2023年12月目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (対2019年比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)	2019年	2023年	伸率(%)
	12月	12月		12月	12月		12月	12月		12月	12月	
総数	2,526,387	2,734,115	8.2	2,292,029	2,551,290	11.3	124,260	80,703	-35.1	110,098	102,122	-7.2
韓国	247,959	782,726	215.7	210,261	757,696	260.4	22,621	15,495	-31.5	15,077	9,535	-36.8
中国	710,234	312,474	-56.0	645,786	269,957	-58.2	32,067	18,409	-42.6	32,381	24,108	-25.5
台湾	348,269	399,500	14.7	332,446	388,567	16.9	10,054	7,081	-29.6	5,769	3,852	-33.2
香港	249,642	251,080	0.6	245,797	248,105	0.9	2,847	1,639	-42.4	998	1,336	33.9
タイ	164,936	125,822	-23.7	160,472	122,486	-23.7	2,496	1,662	-33.4	1,968	1,674	-14.9
シンガポール	100,376	113,695	13.3	97,736	112,107	14.7	2,300	1,320	-42.6	340	268	-21.2
マレーシア	78,250	60,806	-22.3	75,655	59,099	-21.9	1,807	1,118	-38.1	788	589	-25.3
インドネシア	59,203	63,696	7.6	54,273	56,150	3.5	1,989	1,147	-42.3	2,941	6,399	117.6
フィリピン	81,542	79,107	-3.0	75,778	70,312	-7.2	2,083	5,124	146.0	3,681	3,671	-0.3
ベトナム	30,606	37,047	21.0	10,055	13,938	38.6	2,766	2,457	-11.2	17,785	20,652	16.1
インド	11,739	13,515	15.1	5,264	7,756	47.3	3,839	2,861	-25.5	2,636	2,898	9.9
豪州	72,653	89,471	23.1	68,892	87,045	26.3	2,052	1,176	-42.7	1,709	1,250	-26.9
米国	144,498	183,166	26.8	124,956	172,056	37.7	14,447	7,477	-48.2	5,095	3,633	-28.7
カナダ	35,132	36,441	3.7	32,839	35,092	6.9	1,401	724	-48.3	892	625	-29.9
メキシコ	6,499	9,081	39.7	6,138	8,766	42.8	224	163	-27.2	137	152	10.9
英国	27,750	23,877	-14.0	22,695	21,094	-7.1	3,397	1,632	-52.0	1,658	1,151	-30.6
フランス	20,261	17,732	-12.5	16,403	15,460	-5.7	2,473	1,348	-45.5	1,385	924	-33.3
ドイツ	13,639	11,810	-13.4	9,799	9,592	-2.1	2,954	1,622	-45.1	886	596	-32.7
イタリア	11,196	10,560	-5.7	9,662	9,485	-1.8	1,163	729	-37.3	371	346	-6.7
ロシア	8,833	3,255	-63.1	7,032	2,662	-62.1	1,259	297	-76.4	542	296	-45.4
スペイン	7,295	6,361	-12.8	6,509	5,938	-8.8	495	199	-59.8	291	224	-23.0
中東地域	5,554	7,223	30.1	4,504	6,504	44.4	747	464	-37.9	303	255	-15.8
その他	90,321	95,670	5.9	69,077	71,423	3.4	8,779	6,559	-25.3	12,465	17,688	41.9

注) 目的別訪日外客数の定義については、図3注参照。
出所: 日本政府観光局(JNTO)、2024年3月19日付より筆者加工